

## 平成26年度 第1回 東近江市市民協働推進委員会 会議録

開催日時 平成26年7月28日(月)午後7:30~9:30

開催場所 東近江市市役所新館 319会議室

出席者

市民協働推進委員 深尾昌峰、飛田重金、高頭勇次、福田純子、小倉昌和、太田裕子、  
楠神渉、佐子友彦、築山清美、北井香、森田徳治、荷宮将義、  
井尻久嗣、大橋正徳、板倉元

事務局 村井総務部長、まちづくり協働課 黄地、山口、浅田

議事

- 1 正・副委員長の選出について
- 2 会議公開規程の制定について
- 3 委員会の概要等について
- 4 協働の本質とこれからの自治

深尾 昌峰 龍谷大学准教授

- 5 意見交換(協働で取り組むしくみ)

会議録

開会

### 【事務局より開会のあいさつ】

議事の進行は、初回の会議で、委員長・副委員長選考までは事務局で行い、その後の進行は委員長の方で願います】

(部長あいさつ)

皆さん、こんばんは。

本来ですと市長が挨拶するところですが、公務で姉妹都市のマーケット市に訪問中のため不在であり、代わりに代読させていただきます。

本日は、平成26年度の第1回の市民協働推進委員会を開催させていただきましたところ、委員の皆様には大変ご多用のところ、ご出席を賜り誠にありがとうございます。日頃から、皆様方には、東近江のまちづくりにそれぞれのお立場から格別のお力添えを賜っておりますことを厚くお礼を申し上げます。

このたびは、市民協働推進委員のご就任をお願いしましたところ、快くお受けいただき、また、公募委員の皆様には、積極的なご参加をいただきまして、重ねてお礼を申し上げる次第です。

さて、本市では市民や市が互いの特性を生かしながら協力し、地域の課題解決を図る「市民と行政の協働」を基本的な考え方として、まちづくりを進めています。また、これまでの取り組みをさらに強化・推進するため「東近江市協働のまちづくり条例」及び「東近江市市民協働推進計画」を市民参画で制定・策定しました。

簡単に「協働」と言いましても、市民と行政、立場の異なる者同士が共通の問題意識を持って、共に行動しようとする事は、容易なことではありませんが、東近江には、昔から「協働」の下地があったと思っています。湖東平野に数多くあります農村集落では、農作業や道普請、川普請、祭礼行事など、自分たちのことは自分たちですという惣村自治の歴史がありました。また、近江商人を数多く輩出したこの地域では、広く公共利益のために貢献する文化も根付いてきました。

そして今日では、自治会、まちづくり協議会や、NPO、ボランティアグループ等、様々な形の市民活動が、地域社会に息づくようになりつつあります。

このような中で、協働によるまちづくりの指針として作成した「協働のまちづくり条例」や「市民協働推進計画」をより実効性あるものにし、総合的・計画的に推進するための仕組みや制度などについて皆さんご審議賜りたいと思います。

今後2年間、東近江市のまちづくりについて皆様方の豊かなご経験とご見識を賜りたいと存じますので、どうか忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げまして、ごあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【委員それぞれによる自己紹介】

本日出席の委員15名がそれぞれ自己紹介をする。顧問の中川は欠席。

その後、事務局4名も自己紹介。(資料p2参照)

#### 【正・副委員長の選出】

委員長・副委員長の選出について、東近江市協働のまちづく条例施行規則第9条の規定により選出される。委員長に龍谷大学の深尾昌峰先生、副委員長に湖東地区まちづくり協議会の福田純子さんが選出される。(全員賛成)

(委員長あいさつ・深尾委員長)

前回の委員会から東近江市に関わらせてもらって、東近江市という名前を聞くたびに他人事とは思えないようになってきています。前回の委員会では非常に活発に条例等を作成するための議論をしました。事務局の案を確認する場というのではなく、一から作っていくという会議でアライづくり型の委員会ではありませんでした。今回の委員会でもその分は継承していきたいと思ひますし、先ほどの自己紹介の中でもありましたが、こういうことをしたいという皆さんの想ひも受けて私も覚悟を持って取り組んでいきたいと考えています。

議論をしながら楽しく、みんなが笑顔になれる東近江市の未来をつかっていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(副委員長あいさつ・福田副委員長)

大役を果たせるかなと不安に思ひていますが、よろしくお願いいたします。まちづくり協議会

で活動していますが、条例ができて動きやすくなったこととその分大きな責任を感じるようになりました。できた条例が地域の皆さんに浸透するように頑張っていきたいと思っています。

(委員長)

ありがとうございます。以後、進行をさせていただきます

まず、「市民協働委員会の会議の公開に関する規定について」を事務局より説明をお願いします。

### **【市民協働委員会の会議の公開に関する規定について】**

(事務局)

資料に基づき説明(資料p3参照)。

原則、委員会は公開する。そして、毎回会議録を作成し(発言者の名前はふせて)、会議録をホームページに掲載することを説明。

(委員長)

何か本件に関しましてご質問ご意見はありませんか。特定の個人情報を扱う議論ではないので、どんどん公開していくことが望ましいと思います。承認ということによろしいでしょうか。はい、承認とさせていただきます。

続きまして、今回の委員会で何を議論するのかということと、昨年度までの委員会の議論を含めて、事務局に説明をしてもらいたいと思います。継続の委員さんと新しい委員さんのギャップも埋める意味も含めて説明をお願いします。

(事務局)

### **【東近江市市民協働推進委員会の概要】**

委員会設置の趣旨、委員会の役割、平成26～27年度検討事項、昨年度までの委員会の様子)について資料(p4～5)に基づき説明。

(委員長)

只今説明をいただきました委員会の概要、進め方、日程的な事も含めて、何かご質問やご不明な点がありましたら、ぜひいただきたいと思います。先ほど説明頂いたように、条例や計画ができ、それに基づき具体的な制度設計やしくみをつくっていかうということです。具体的には、協働ラウンドテーブルを作った方がいいよねとか、交流するような機会が必要だねとか、頑張っている人たちを表彰できようなくみが必要だねとかを議論していきたいと思っています。議論の結果、そんなのいらないとかならそれでもいいかと思っています。

(委員)

はじめてなので状況がわからないところもあります。まだ、今後の展開が想像できません。委員にどこまで求められているか私自身、資料をみて理解できていないことがあるので、

もう少し順番に細かく説明頂きたい。

(委員長)

具体的な活動内容のところの事業について、この委員会でどこまで委ねていくのか、そして、中身のところを説明していただけたらと思います。

(事務局)

今年度は策定しました市民協働推進計画にあげられている、いくつかの項目について実現していくにあたり、皆さんと一緒にルールづくりや実施の方法を検討していきたいと考えています。限られた回数になるので、まずは協働ラウンドテーブルのしくみづくりを今回と次回ぐらいで検討していきたいと考えています。というのも、協働を進める時のスタートのところ、こんなことを考えてみたけど、それを誰とどんな風に進めていけばいいのかわからない、誰に声をかけてまず同じテーブルでそれぞれが考えていることを意見交換ができる場所を作っていくべきだろうということが計画に書かせてもらっています。その場をつくるということも実は色んな注意事項があるんじゃないかとか、それを行政の都合だけで制度をつくってしまうと市民の皆さんの提案がしにくいのではないかとか、本当に見つけなければならぬことが見つけにくいのではないかということで、この委員会でこういうことを考えておいた方がいいとか、こういうやり方が過去にやってみて良かったとかの話を取りながらルールをつくっていきたくと思っています。まずは事務局がお願いしたいと思っている事項です。そして、委員会で話を進めていく中で、より色んな分野の協働や交流が進むようにどうすればいいのか等を議論していきたいと思っているので、準備を進めていきながら検討していきたいと思っています。承認を得るだけの委員会にならないように進めていきたいと思っています。

(委員長)

今説明ありましたように、まずはラウンドテーブルのしくみづくりをして下さいということです。具体的な話をする前に生活や活動をする中でどのようなしくみが必要かについて「協働」というキーワードで話をし、今日も後でグループワークを行います、そして、どのようなしくみが必要かを丁寧に組み立てていきたいということです。いかがですか。

(委員)

ラウンドテーブルのしくみづくりの話はわかりました。他の内容もあるが、タイムテーブルとしてある程度想定しているのか。全部網羅する予定なのか、できたところまででいいのか。

(事務局)

できるだけ2年間で資料に書いてあることは網羅していきたいと思っているが、事務局の思いだけで進めたくない、皆さんとのやり取りの中でタイムスケジュールは作っていきたくと思っています。

(委員)

具体的な活動内容は、決定されたものですか。

(事務局)

全て市民協働推進計画に書かれたものの中で、しくみづくり等が必要なものが活動内容となっている。これをベースにしながら進めていきたいが、議論を進めていく中で必要なことが出てくれば検討していく。

(委員長)

そういった意味では、最低ここに書いてあることは議論をしていこうということ。それで、やるかやらないかという方針は出して、それを行政の方でどのように受けとめるかは行政が判断することです。また、こういうこともやった方がいいということが出てくれば検討していけばいいという風に私も考えています。

それでは、今日の資料の6ページにつけさせてもらいましたが、なぜ今協働なのかについて、話をさせていただきます。

#### 【協働の本質とこれからの自治】

この10数年、行政は効率を求めるスタイルを志向していく中で、財政的な問題もはいつてきて、アウトソーシング・・・行政事業をどんどん外に出していくという流れがあります。これはある意味で企業等に業務委託等として出すという流れと、もともと公共的な空間は市民が担っていて明治以降に役所という仕組みをつくって行政に税金で任してきたことが肥大化してきたので、それを元に戻していかないと行政がもたないぞという流れです。民主党政権ではそれをポジティブに位置づけて「新しい公共」という呼び方をしました。要は公共というものを役所だけで実現していくのではなくて、市民全体・・・企業も含めて公共空間を形成していくということを国として位置づけました。今は政権交代がおこり「共助社会」という呼び方をしていますが、基本的な考え方は一緒です。これは政権がどう変わろうが、地方・地域は役所任せだけではどうにもならないということも国は認識しているということです。例えば福祉にしても介護保険や国の仕組みだけではどうにもならないということを皆わかっている、色んな人が色んな形で関わりながら考えていかないとダメだということがわかってきました。まちづくりにしても都市計画にしても同じです。私たちの社会は大きく構造が変化していて、それはかつて経験したことのない変化の中にいます。

資料の6ページの表に記載していますが、2005年を100とした指数の表で、aは0歳から14歳までの子供の数、bは15歳から64歳までのいわゆる生産力人口・・・働く人の数、cは65歳以上の数、そして、dは言い方が悪いのですが75歳以上の後期高齢者・・・今度国の方で言い方が変わるらしいのですが、熟年高齢者・・・一緒だと思いますが、その数です。上の段が2005年を100とした東近江市の割合、下の段が国の平均の割合です。この人口推計というのはほぼ狂うことはありません、大きな戦争や災害がおこらない限り、そのとおりになります。統計的に見える未来です。数少ない未来を予想できる数字の一つと言われています。

子どもの数を見ると、2005年を100%とすると、2035年には指標が全国で59.8%、東近江市が70.6%と減るのは減るのですが、全国的にみると東近江市は子どもは減らないと言えます。一方で高齢化も全国平均より緩やかに進んでいきます。そういう意味では東近江市というのは少子高齢化ということであるという余裕がある全国的に特殊な地域です。滋賀県全体に言えますが。逆に言えば、これから全国で起こっていくことがかなり遅れてピークがやってくるということです。dの数字を見ると全国的には2030年に高齢化のピークが終わるのですが、東近江市はそれ以降にピークがやってきます。まちづくりとしては遅れてくるだけですが、有利な部分もあると思います。ただ、合併をしているので旧町単位でみると特徴が分かれるかもしれません。

先日、国の発表でなくなる地域が出てくるという推計がでました。要は、このままいくと地方の自治体の半分が消滅するという衝撃的な内容でした。働き手がなくなり、高齢者が増えるということは厚生労働省が想定しているシナリオでは、2050年には1.2人の高齢者を1人の現役世代が支えていくことになるというものです。そういう時代が来るので、今までの私たちが当たり前と思っている、例えば高齢者の社会保障は行政するもんだというようなことは崩れざるを得ないということです。

こういう風に私たちが経験したことのない社会構造の変化とともに、同時に地域の課題がかなり複雑化・多様化してきています。そういう中で公共空間や公のサービスみたいなものを先ほど話したように、行政だけで担うというのは現実的に不可能になってきています。財政的な問題もありますが、人的な問題もあります。総務省の方針で、地方公務員の数は減らしました。地方財政は一部改善したようなところもありますが、自治体の職員さんは仕事でいっぱい状態でもあります。昔のような皆の価値がある程度同じであった時代とは違い、今は色々な幸せ像があったり、色々なまちの課題があり、行政だけでまちづくりを行うのは不可能となっています。こういった背景の中で「協働」「パートナーシップ」というものが出てきました。行政だけでは崩壊する、まちは自分たちのもので行政だけのものではなく、自分たちのまちは皆で考えていくということを真剣に考え直さなければいけないということが明らかになりました。

「協働」というのは、私自身は課題の本質をつかみ、近い将来に備えた自治の仕組み作りだというふうに思っています。ただ、多くのまちで進んでいる「協働」というのは、行政の事業を多くの市民にやってもらうというのが協働だと捉えられているところがあります。例えば、行政が行っていたイベントを市民で構成する実行委員会方式でやってもらいましょうというのがあります。これは、行政主体から市民主体に切り替えていくということで、これも協働の一つだと思いますが、それが全てだのように語られてしまう。僕自身はこれが問題だと思っています。先ほどのとおり、協働というのは「自治のフレーム」ですので、例えば、東近江市ではまちづくり協働課だけがやる仕事ではなく、つまり担当課だけがするというものではなく、人権のこともまちづくりのことも商業政策でも福祉の政策でも市民と一緒に考えていく、実は当たりまえのことですが、それができない。これからの協働というのは住民が協力するということだけのことでなく、色々な住民たちが課題を持ち寄りながら自分たちに何ができるか、行政責任はどこまでなのかの線引きを皆で議論しながらなければならないと思います。そういうための仕組みやルールが、まちにはありません。

例えば、道路をつくる場合、今までは行政に要望して道を作ってくれという形でしたが、自分達で作ったらいじゃないかといことも全国的には起こり始めています。大きな道路は無理ですが、農道や生活道路みたいなものを行政は資材を提供して、住民たちが自分たちに必要な道を皆で作ろうという動きも起こっています。予算をつけてもらって想定外のものができるよりも、自分達でした方が、安価で、早く、自分たちが本当に必要としているものになります。自分達で、まちを考えることが実は協働の非常に大事なことだと思います。

資料の7ページですが、私達の課題がどこにあるのかというのを今までの行政のスタイルだけではわからないということがあります。色んな行政施策を考える時に審議会等で話し合うのですが、ある一部の人の課題でしかないこともあります。ただ、それしか方法がなかったのです。そのようなやり方を疑ってみて、見直してみ、色んな人に話を聞いてみようという自治体も出てきています。色んな声の聴き方、色んな課題の洗い出し方があって、そういう中で自分達のまちの問題をどのように解決していこうかの場をつくったりとかプロセスを作ったりするのが大事だと考えています。そういう意味では、協働というのは総力戦だと考えています。まちがまちとしてあり続けたり、このまちに住んで良かったというふうに住居者として豊かに思えるまちにしていくというのは行政の役割でもなくて皆でやるしかないと思います。ここにこんなお店や商売があって良かったよねとか、まちづくり協議会の皆さんも頑張ってもらっていますが、まちを考える団体があって良かったよねとか、まち全体で住民の力を地域社会の中に活かしながら総力戦でまちを守っていく。そういうことを通して、雇用政策や観光や産業振興なんかもその中でやっていけるのではないかと考えています。僕はそれを自治のあり方を変えることだと思っています。

1つだけ事例を発表します。徳島に上勝町というまちがあります。葉っぱビジネスで有名になったまちです。ただ、そこはもう一つ大事なことをやっていて、ごみの収集をやめました。今までの行政サービスではごみ収集があるのが当たり前でした。ただ、そのまちはそれを止めて、自分達で持って行くというスタイルに変えられた。そうなったのはゴミの焼却地・処分場のキャパシティが限界に近づいていく中で、今までの行政的な考えでは次にどこに建てるのかを考えるのですが、このまちでは住民がどうすればいいのか考えました。建てなくてもいい方法を考えました。どうすればいいのか、ゴミをださなかつたらいいんだという話になり、初めは無理だよとかいう話もなったのですが、何十回という議論を重ねて、よしやろうということになりました。それによるコストダウンで、処分場等を建てなかったり、ごみ収集をやめて浮いたコストでこういうことをやろうというようなことになりました。今、どうなっているのかというと、自分達で当番を決められているところもあるし、個人で持って行っておられるところもあります。また、分別も40数種類に分別して、徹底的にわけて全部資源化しようとしてされています。生ごみは全部コンポストで堆肥化です。そういうことを通して、できるだけ、埋め立てや焼却処分量を減らしていこうということにされています。これも協働ですね、自分たちのまちの形を考えて、無駄なことを止めて、お金を振り分けようというのを地域で考えられています。このことは小さいまちだからできたということもありますが、大きいまちでもできることはあります。そういうことを皆で考えていくことが協働だと思います。

今は協働というと行政の事業を市民が担うというスタイルのイメージかもしれませんが、

もう少し住みやすいまちにしていくために皆でどのように考えていくのが協働の大事なことだと思っています。できれば、この委員会ではそういうことを頭の中に置いておいてもらって、東近江市が皆が住んでよかったと思える風な議論ができたらと思います。また、もう一つ重要なことで、色んな形で参加できるのが大事なことで、協働は社会参加の一つの形態ですので、色んな人が力を持ち寄って地域の自治を再構築できるようなことを住民目線で考えながら実現していけたらと思います。できることからやっていけばいいと思いますが、この委員会では少し背伸びをしながら、そういったことが引き出される制度やしぐみを皆さんと考えていけたらと思います。

最後に伝えたいことが8ページの市民の参加の意味のところで、先駆性です。実は行政ができないことで市民ができることはたくさんあるということです。行政は基本的に議会がうんと言わなければならない組織です。それは宿命なのでしょうがないです。みんなが問題に気づかないと動くことができない組織です。税金で仕事をしている上でしょうがないところです。しかし、市民は困っている人がいたらすぐに助けることができる。つまり、ほっとけないところにすぐに行動ができることが市民の特権であり市民にしかできないことだと思っています。そういうことが先駆性だと思います。ここに困っている人がいるよという声をあげることができるのも実は市民で、それから行政が気づき、そしてメディアが取り上げ社会全体として気づいていきます。市民協働推進計画に記載されている「協働ラウンドテーブル」みたいなものも、声をあげる場なのかも、声を広げていく場なのかも、市民的な目線でこんな政策をこういうやり方のいいかもと提案する場かもしれません。市民のまなざしで思うことや感じることを表現しながら、そして、それを色んな人たちの理不尽さや課題を、皆で考えて地域の活性化やまちづくりにつなげていくことが協働の本質かなと思います。あまり、行政の委託事業をどのように市民がするのかという小さい議論にまとめるのではなくて、協働のまちづくりというところで皆さんと議論をできたらと思いますので、よろしく願います。

### 【グループワーク】

2グループに分かれて「これまでの協働体験談（うまくいった、いかなかった）等」「自分で解決できない課題等」「協働（コラボ）したいときに、どのような場所・ルール・人などが必要か？」について意見交換

意見交換の内容は次ページ以降

### 【事務連絡】

事務局より事務連絡

【次回の開催日は、8月28日の19時30分から】

### 【閉会の挨拶】

副委員長より閉会の挨拶

閉会



## Aグループ グループワークの意見まとめ

### 【これまでの協働体験談（うまくいった、いかなかった）等】

うまくいった 、 ×うまくいかなかった 、 その他

- ・ コトナリエは行政の支援からスタートし大きくなったが、維持するのがしんどい。
- ・ サマーホリデーは資金面で厳しかったが、まち協から応援してもらえるようになった。
- ・ 行政や教委の関わりが薄くなったイベントが実行委員会で出来るようになった。
- ・ 蒲生ではまち協活動に JA や商工会も参加するようになりそれが定着している。
- ・ 区長会は行政の情報を流すだけだったが、コミセンと相談し、連合会長が主導権を持って防災訓練を企画するようになった。県大と連携も出来るようになり、行政が見学に来るようになった。
- ・ 地元の課題に向き合う役割はコミセンや自治会である。
- ・ 建部地区の認知症保護は自治会がネットワークを組んで自主運営している。社協からの呼びかけではすべての自治会が集まらない。
- ・ 蒲生の病院問題では、まち協と自治連が協力して勉強会を開催し、まち協から提案したものを行政が採用するということもあった。
- ・ ×市民活動で始めたことを行政が後ではじめたことで、市民活動が下火になった。
- ・ 五個荘では活動資金として住民から育成資金を徴収している。

### 【自分達で解決できない課題等】

- ・ 5年間の補助金のあと、自主運営になった里山活動で、世代交代が課題となった。
- ・ 自治会加入率が低い中で、行政から「義務ではない」という話はしないでほしい。
- ・ 社会教育団体はガードが高い（福祉団体は協力してくれやすい）
- ・ コトナリエの補導にたくさんの団体が協力しているが、まち協が調整しきれない。

### 【協働（コラボ）したいときに、どのような場所・ルール・人などが必要か？】

- ・ 行政情報の提供
- ・ コーディネートする人、地域のリーダー  
まちづくりにはイベント的なものと日常的なものとある。今後力を入れていくべきは日常的なもの。行政と市民のやることをコーディネートしてつないでいく必要あり。
- ・ 人材を確保するためにはチャンネルをたくさん持つておくことが大切。
- ・ この委員会を市民ベースの組織にしていく必要がある。それには口コミしかない。住民・市民が同じ目線で見えて提案していけるように。
- ・ 住民と市民グループのギャップを解消する必要がある（やりたい人がやっている、との誤解を解くべき）
- ・ 環境等の市民活動では活動資金がない。自主財源必要。

## Bグループ グループワークの意見まとめ

### 【これまでの協働体験談（うまくいった、いかなかった）等】

うまくいった、 ×うまくいかなかった、 その他

- ・ 視覚障がいの方への家に来てくれるボランティアはなかったが、対面朗読ふくみみというボランティアが立ち上がり、自宅において書籍や手紙などの対面朗読を行うことをしてくれるようになった。待望されていた。雑誌にも載せてもらったが、全国で初めてのことだった。話すことで皆が笑顔になれるし、そういうことを目指していきたい。
- ・ 青少年に関わる事業をする時に、地域の人（自治会）にも協力してもらい、趣旨を理解して頂き、先生や地域の人で地域の中でウォークを実施することができた。8年続いている。
- ・ 東近江には外国籍、特にブラジルの方が多いが、日本の子供たちと交流がもてなくて、トラブルに巻き込まれることもあった。公園に集まって、音楽を通して交流しようということで活動がはじまった。はじめは自費のみだったが、市の補助金をもらいながら活動することができた。
- ・ 中間支援組織の寄付金制度を活用して市民の方に支えてもらいながら活動している。
- ・ サンバの活動をしている中で、サッカーチームに声をかけてもらい、ハーフタイムに踊らせてもらった。子ども達の自信にもつながった。
- ・ 中間支援組織のHPで活動を紹介してもらえたのも良かった。
- ・ 障がいのある方やニートの方が働く体験をする場所の必要性を感じ、農業を通して就労体験をしてもらう活動をしている。福祉と農業という違う分野でつながりそうにないと思われるかもしれないが、つながることでお互いに大きな効果があった。また、来てくれている人は若者サポートステーションの情報を見た親や、民生委員の協力もあってつながった。
- ・ ×協働という言葉がまだ理解されていないと思う。理解されるのに時間がかかる。どれを協働というのか。やらないとわからないと思う。
- ・ 理念とか目的とかあって活動している。協働と思ってやっているわけではない。知らないうちに色々な人が集まってできている。後から、それが協働と言われることがある。

### 【自分達で解決できない課題等】

- ・ 自治会から脱会していく問題。理由は役員が嫌。罰則もなく止める手段がない。条例にも書いてあるが、効果は薄いかも。
- ・ 認知症（1人暮らし）で色々な物を買ってしまうという方のお世話をされている人（元民生委員）がいるが、解決策がなくて、総合的に相談をするところがないという話がある。
- ・ 「あなたは自治会に入っていますか？」という市役所のCMを見たことがある。東近江でもやって欲しい。
- ・ 福祉の仕事だと、制度のすきまの部分が課題。
- ・ 都会の人が田舎に移り住むときに、青年団にあこがれて入ってくるという人がいる。自治会にあこがれて入ってくる人もいる。小さな集落に憧れる人もいる。しかし、逆の考えの

人の方が多気がする。昔からの集落は敷居が高いという人もいる。入って欲しいと待っている人も多い。

**【協働（コラボ）したいときに、どのような場所・ルール・人などが必要か？】**

- ・疲弊しないしくみ。仕事やからできることもある。そして、色んな人に相談でき、色んな人がつながって役割分担できる、厚みのある活動。多くの人に応援できるしくみ。その人、その団体の応援団をつくること。
- ・困っている人に手を差し伸べることができるしくみがあればいい。
- ・制度にのれないところへのサポーターができれば。それは、福祉だけではなくて、色んな立場の人が集まることが必要だと思う。そういったサポーターが自然に生まれることも大事。
- ・色んな立場の人が集まる時に、皆がわかる言葉で説明する必要があり、相手のことを思いやることができる。共感するには大事。
- ・協働ラウンドテーブルは小さいコミュニティの話か市全体に及ぶ話に関するとか。
- ・協働が大事だという話をする時にどうしてもネガティブな話から入るのに違和感がある。危機感というのはわかるが、ネガティブに捉えない面白いものにしたい。子どもたちにはネガティブな話は関係なく、このまちが好きやこのまちをこういうまちにしたいということが大切で、子ども達の未来が明るくなるようにバランス感覚は残したい。
- ・良いまちだと思っている。地域の資源を活かしたい。
- ・肥大化した行政を本来の形に戻していくことが本当に大切だと思う。
- ・地域の色々な人が関わって地域で子どもが育つしくみ。
- ・自治会の話で感じたが、どのように当事者意識を持たせるか。参加意欲がわくように。どう参加させるか。ネガティブな理由だけでなく。
- ・地域の絆に憧れるようなまちづくり
- ・コミュニケーションがこれからの最大の課題で大事なこと。
- ・よそ者を拒まないような。話しやすい環境が大事。
- ・危機はチャンスだと思うことも必要。
- ・課題が明白だからこそ、皆が助け合おうとする。